

研究機関：広島大学

研究課題名	XELOX とベバシズマブによる術前もしくは術後化学療法を施行した大腸癌肝転移切除症例を対象とした多施設共同後ろ向き研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器移植外科学 教授 大段 秀樹
研究期間	2019年8月5日(倫理委員会承認後)～ 2023年6月1日
対象者	2010年11月から2018年6月の間に、広島大学病院消化器移植外科もしくは共同研究機関でXELOX とベバシズマブによる術前もしくは術後治療を受けられた大腸癌肝転移切除後の患者。
意義・目的	大腸癌の肝転移に対する手術療法の有効性は明らかですが、術前もしくは術後化学療法の再発抑制や予後改善効果については明らかになっていません。大腸癌肝転移に対して術前もしくは術後化学療法を受けた患者さんの予後を検討するために、この研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は CT 画像、再発の有無、再発部位、転帰等の情報です。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	県立広島病院、中国労災病院、東広島医療センター、JR 広島病院、尾道総合病院、呉医療センター、呉市医師会病院、安佐市民病院、吉田総合病院
試料・情報の管理責任者	広島大学に情報を集め広島大学（研究責任者 大段秀樹）が解析します。
個人情報保護について	広島大学 消化器移植外科教授 大段秀樹

#### 個人情報保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。(モニタリング有の場合)ただし、モニタリングのためプライバシーが保護されることを条件に、研究者から業務委託された者が、あなた個人を特定できる形で診療情報を閲覧することがあります。

なお、本調査に同意したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいてもお断りが生じません。